

# 巻 頭 言

長野県透析研究会会長 上 條 祐 司

2020年初頭に中国武漢からはじまった新型コロナウイルス感染症（COVID-19感染症）は、瞬く間に世界中に拡散し、全世界を混乱に陥れています。世界中で医療崩壊の危機が報道されており、この原稿を書いている2020年4月は、日本でも全国的な新型コロナウイルス感染患者の発生増加が報告され、日本国政府より緊急事態宣言が出されたところです。長野県においても、新型コロナウイルス陽性患者が増加しつつあり、今後透析患者においてもウイルス陽性患者が出現し長野県の透析医療体制を崩壊へと導くことが大変危惧されています。医療機関が通常機能を維持し続け、新型コロナウイルス感染症が多大な犠牲者を出さずに速やかに収束するために、今、我々にできることは何なのか・・・？

長野県透析研究会では、透析医療を守るため、皆さんとともに知恵を出し合っこの難題に対して積極的に取り組み、この難局を乗り越えたいと思っています。

新型コロナウイルスは無症状者や軽症者における高い潜伏性と強い感染伝播能力が特徴であり、その感染を予防するには人と人とのつながりを断つことが最も有効とされ、social distanceという言葉でなるべく他人と接しない、という方策が全世界中で取られています。しかしながら、この難題に対しての個々の対応や意識までバラバラになって離れてしまうと、このウイルスに打ち勝つことは到底できないように思われます。

たとえ物理的には距離的には離れていたとしても、我々の個々の意識は強い絆で結ぶことができます。そして、その強い絆のもと、多くの意見を取り入れた末に構築された方策は、おそらくとても効果的に機能することが期待されます。そのためには、まず多くの予想される問題点を抽出し、それらを整理し、何が問題点のポイントなのかを明白にし、それらを攻略するための準備をし、作戦を立て、実践する必要があります。まずは、なるべく多くの情報収集、そしてそのデータに対する活発な議論が必要になると思われま。そして、このようなプロセスはウイルス感染対策のみならず、今後起こりうる様々な難題に相対するときでもその重要性は変わらないように思います。

現在、透析医療においては、多くの透析合併症に対する課題、透析患者の高齢化やそれに基づくサルコペニア・フレイルなどの問題、尊厳ある死と透析医療との折り合い等々、様々な難題が山積みされています。

長野県透析研究会や長野県透析研究会誌が、これらの難題に対する様々な観点からの活発な議論に寄与し、より良い方針の構築に貢献することを願っています。

来年の今頃には、去年の最初はコロナで大変だったけどみんなの努力で打ち勝つことができたね！と、皆様と実際にお会いすることができて、笑ってお話できる未来が来ていることを強く信じています。

ぜひ、心をつにし、透析患者さんも医療スタッフも皆様のご家族も誰一人として失わないよう、みんなで知恵を出し合い頑張りましょう！！

今後とも、よろしくお願い申し上げます。